

ごみ組成調査結果から見えてきたもの

ごみの分別・リサイクルにご協力を

市では毎年1回、市内のごみ集積所を無作為に抽出し、家庭から出されるごみがどの程度分別されているかを調査し、今後の収集体制や市民への情報提供などの基礎資料とすることを目的にごみ組成の分析を実施しています。今年度は平成26年10月～11月に実施し、結果は下記のグラフのとおりです。

■まだまだごみに混ざっている資源物

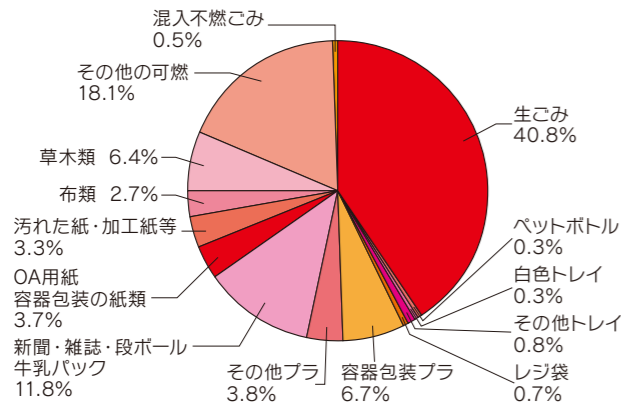
今年度の調査では、リサイクル可能な資源ごみが、「可燃ごみ」で紙や布など27.0%、「不燃ごみ」でビンや缶など35.5%も混入し、ごみとして捨てられている結果となりました。

本市のリサイクル率は、県内44市町村中12位（平成24年度）。市民の皆さまのご協力により、平成23年度の41位

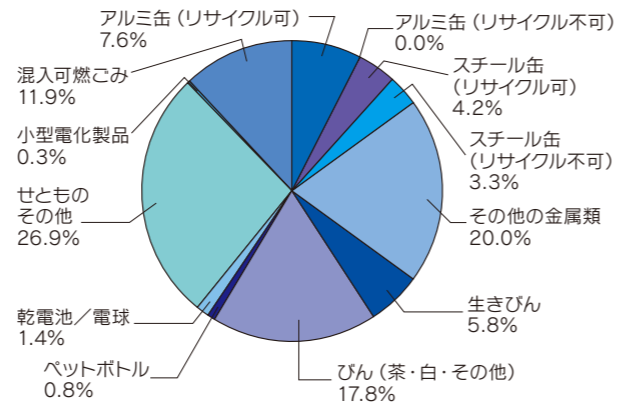
からは大幅に向上しました。しかし、まだまだリサイクルできるものがごみとして捨てられてしまっているのが現状です。

さらなるリサイクルの推進のため、市が配布している「ごみカレンダー」「ごみ分別辞典」などを参考に「資源ごみの分別」にご協力をお願いします。

可燃ごみの組成【グラフ1】 ※重量比



不燃ごみの組成【グラフ2】 ※重量比



「3R促進ポスターコンクール」で全国入賞



賞状を手に受賞を喜ぶ黒川さん

「3R」(廃棄物等のリデュース、リユース、リサイクル)の普及啓発をテーマに、環境省と3R活動推進フォーラムが主催する「3R促進ポスターコンクール」で、総上小学2年の黒川権さんが全国総応募数10,289作品(小学校低学年の部875作品)の中、「佳作」として全国入賞されました。いつも残っている給食を見て、「みんなが残さずに食べればごみを減らすことができる」と考え、ポスターを描いたという黒川さん。「苦手なものはあるけれど、好き嫌いをせずに給食を残さず食べるようにしています」とリサイクルに対する普段の心がけを話してくれました。



ごみを減らすために「3R」を始めてみましょう

有料広告欄

受賞者紹介

堀口さんは長年にわたる保護司の活動を経て、平成22年度から下妻市更生保護女性会の会長を務めるなど、地域の犯罪予防に貢献し、更生保護女性活動の進展に寄与されたことが認められました。

また、下妻市更生保護女性会には、毎年行っている水戸刑務所下妻拘置支所への慰問活動に対し、水戸刑務所長から感謝状が贈られました。



堀口 日出子さん (本宗道)

日本更生保護女性連盟会長表彰

井上さんは平成5年に保護司に就任以来、21年の長きにわたり、罪を犯した人の更生援助や、地域における犯罪予防活動に貢献・尽力されています。このたび、長年の更生保護活動への功績により、法務大臣表彰を受賞されました。



井上 有子さん (下妻丁・上町)

法務大臣表彰

消防・防災

下妻市消防団第5分団第1部に消防ポンプ自動車が増備

市役所本庁舎前で11月13日、下妻市消防団第5分団第1部に消防ポンプ自動車が増備され、引き渡しを行いました。納車式で第5分団の横島義勝副分団長は「約20年ぶりに第5分団第1部に新しい消防ポンプ車を納車していただきありがとうございます。今後は第5分団団員一同、なお一層地域の火災予防の啓蒙活動に尽力してまいります」と力強く語りました。



最新機能を装備した消防ポンプ自動車が増備されました

税の公正・公平性の確保

市税の滞納処分として不動産公売を執行

下妻市と筑西市は10月29日、合同で不動産公売を執行しました。同日開札の結果、下表のとおり売却されました。税金は本来、定められた納期限までに納税者の皆さまに自主的に納付していただくものです。納税者が納期限までに市税を完納しない場合、市は督促状を発送します。督促状を送達したにもかかわらず市税を完納しない納税者には、滞納処分(財産の差押、公売など)を行い、滞納市税に充当します。今後も税の公正・公平性の確保のため、市税滞納に対し、厳正・的確な滞納処分を行います。

売却区分番号	所在	地目	地積(m ²)	見積価額	入札価額
妻26-1	下妻市半谷	畑	1,517	540,000円	540,000円
妻26-2	下妻市大木	畑	1,754	630,000円	630,000円
妻26-3	下妻市北大宝	畑	328	90,000円	入札者なし
妻26-4	下妻市北大宝	畑	662	210,000円	入札者なし
妻26-5	下妻市北大宝	畑	1,238	380,000円	入札者なし
妻26-6	下妻市下妻	宅地	615.67	7,200,000円	入札者なし
筑26-1	下妻市中郷	田	3,070	1,200,000円	1,200,000円

地域活性化

下妻の農畜産物の6次産業化 地域活性化に寄与「茨城県表彰」

11月13日の茨城県民の日に、県庁で行われた「平成26年度茨城県表彰式」で、功績団体表彰を受賞した「下妻食と農を考える女性の会」の会員15人が11月17日、市役所を訪れ、稲葉市長に受賞を報告しました。

平成10年1月に地元のお母さんたちで発足した同会は「ウィマム」の愛称で、ピアスパークしもつま内の農畜産物加工施設等を活用し、長年にわたり地域の食材を生かした特産加工品の開発・販売をはじめ、体験教室や食農教育などを積極的に行い、地域産業の振興と活性化に寄与してきた活動が評価されました。

横島幸子会長は「地元の農畜産物を使って商品化するなど16年頑張ってきた。会員の努力と各方面の方々のご協力によるもので感謝しています。この受賞を励みに会員一丸となって今後も頑張っていきたいと思います」と意欲をみせていました。



表彰状と盾を手にした下妻食と農を考える女性の会の皆さん

有料広告欄